

南鳥島のセグロアジサシの亞種名に就て*

黒田 長久

私は 1952 年 4 月 30 日から 1 週間南鳥島に滞在して鳥類の採集を行つた。此際サンプルとして持帰つた 6 個の標本と 3 個の卵に就き既存の標本，文献による測定等と比較した結果を報告する。

南鳥島の標本の測定は次の如くである。

(単位は mm.)

Locality	Date	Sex	Wing	Tail	Cul.	Tar.	Measured by	Note
Marcus I.	3. V. 1952	♂	300	134 (186)	44	23.9	Kuroda, Jr.	Kuroda, Jr. Coll.
"	4. " "	♂	290	129	47.5	24.5	"	"
"	" " "	♂	298	132 (200)	43	23	"	"
"	31. IV. "	♀	299	125.5	44.5	25	"	"
"	1. V. "	♀	294	129.5 (182+x)	46	25	"	"
"	4. " "	♀	295	121.2 (159)	44	23.5	"	"
"	IX. 1902	? juv. (pale)	290+x	126.5	42.5	24	"	Yam. Coll.
"	XI. 1910	—	301	125 (192+x)	43	23.5	"	G. M. Coll.
"	—	♂	297.2 (11.7 in.)	—	44 (1.75 in.)	—	Bryan	Bish. Mus.
"	—	♀	304.8 (12.0 in.)	—	44 (1.75 in.)	—	"	"

註: Yam. Coll.=Yamashina Coll. G. M. Coll.=Game Management Bureau Coll. (獵政調査課). Bish. Mus.=Bishop Museum (Honolulu). 最外尾羽は多くすれているので測定可能のもののみ () で示し他は第 2 外側尾羽の長さである。

以上の測定を総合すると次の如くである。

	Wing	Tail	Cul.	Tar.
No. of spec.	10	8	10 (42.5)	8
min.	290	121.2	43	23
max.	304.8	134	47.5	25
mean	299.7	127.8	(43.8) 45.8	23.8

嘴の最小 42.5 は幼鳥の為との疑があるので之を除外すると 45.8 が平均となる。

次に之を他の島の標本の測定と比較すると下記の如くである。

小笠原群島主として西之島の標本の測定: 山階研の標本及び同研の靱山標本 (10 標本中 8 個は産地が無いが之は小笠原群島のものに違いないと判定した) 計 22 個体の測定の総合は次の如

* Nagahisa Kuroda: On the Subspecific Name of the Sooty Tern of Marcus I.

くである。

	Wing	Tail	Cul.	Tar.
No. of spec.	22	22	21	21
min.	279	118	41	23
max.	298	136	44.5	25
mean	286.5	128.7	43.4	24.2

パラオ (Helen Reef) の標本の測定: 山階研の 1932 年の 3 個の標本による。

	Wing	Tail	Cul.	Tar.
No. of spec.	3	3	3	3
	284	118	41	25
	290	122	42	22.5
	292	127	41.3	24.5
mean	288.6	122.3	41.4	24

琉球列島の標本の測定: 山階研西表島の 5 標本 (14. VII. 1936), 獵政調査課石垣島の 2 標本 (8. V. 1926, 24. VIII. 1932) の測定及び黒田博士の Avif. Riukiu Is. 中にある徳の島の 2 標本及び“琉球”の 1 標本の測定は次の如くである。

	Wing	Tail	Cul.	Tar.
No. of spec.	10	7	9	9
min.	277	121	39	22.5
max.	298	133	43	24.5
mean	283.3	127.8	41.6	23.4

台湾の標本の測定: 山階研の 3 標本 (31 V. 1905, 1905, 1904) 及び獵政調査課の 1 標本 (17. V. 1922) による。

	Wing	Tail	Cul.	Tar.
No. of spec.	4	4	3	3
min.	277	111.5	38.5	22.8
max.	296.5	136.0	43	25
mean	285.5	122.7	40.9	23.6

之により南鳥島のものは翼長及び嘴の測定が他の島のものに比し顯著に大であり、他のものは平均上略同大である。翼長に就て測定 of 分布を示すと次の如くである。

	277	278	279	280	282	284	285	286	287	289	290	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	304
南鳥島											1(2)			1	1		1	1	1	1	1	1
小笠原			1	1	1	1	2	2	3	1	1	1			3	1	1	2				
パラオ						1						1	1									
琉球	1			1	2		3	1						1								1
台湾	1	1										1										1

次に外側尾羽の測定可能のものに就て見るとやはり次の如く南鳥島のものに於て長い。

南鳥島: 186, 200 (♂), 161 (新生中のもの), 182+x (♀), 192+x (性不詳)

小笠原群島: 199 (♂)

琉球: 173 (♂)

台湾: 164, 167 (性不詳)

静岡のものでは 163.5, '本州' のものでは 167 である。

羽色に於ては上記の標本は殆んど差がないが南鳥島のは小笠原, パラオのものに比し胸部の白色が純である。外側尾羽外辨(多くの標本では損失してゐるが)は殆んど白色で先端部内辨は灰黒色である。新生羽の 3 例(台湾, 小笠原(?), 南鳥島)では先端部外辨も黒く尖端が僅に白い(南鳥島の例では外辨の黒が稍少い)。

Hartert (Vög. Pal. Faun., p. 1710) によれば尾張及び琉球(4 標本)で獲られたものは印度洋のものと羽色に於て全く等しいと云ふ。尙印度洋のもの測定は Baker によれば Wing 278-297, Tail 145-162, Culmen 35-42 (La Touche より), Murray によれば夫々 266.5-302.4, 177-190.3, 40.6-43.2 (インチより換算)で大体琉球小笠原のもの測定(但し翼長 300 mm に達しない)に一致する。

日本鳥類目録(1942)では裏南洋も含め総て *nubilosa* に統一されてゐるが Peters (1934) によると, ハワイ, 南鳥島, 小笠原群島以南の太平洋のものを *oahuensis* と同定し, 印度洋, 支那海, 琉球のものを *nubilosa* としてある。

ハワイの *oahuensis* は外側尾羽が長く(191-120 mm)白色部多い点でガラパゴス島から米国東岸の *crissalis* と異なるが共に大西洋の *fuscata* より下面灰色に富むと云ふ(Ridgway, 1918, p. 488)。

南鳥島のは前記の如く下面可成り白く比較すべき *oahuensis* の標本はないが測定が大なる点では大体一致する。但し後者の方が更に大形であると思はれる。即ち Bryan (1901) によれば Wing 298.4-304.8, Culmen 48.4-51.4 (インチより換算)である。

セグロアジサシの分類に関しては決定的な研究が未だ為されて居ない様であり Baker (1951) も裏南洋の亜種名に関しては Peters の目録に依つてゐる。私は上記の結論として南鳥島のは主として測定大なる事により *oahuensis* とすべきであると思う。ハワイのものは少く共嘴に於て更に大型と思はれるが Peters はその目録作製に當つて 1902 年に Bryan が採集した多数の標本を恐らく調査した結果 *oahuensis* と同定したと想像される。一方小笠原群島やパラオのものは測定上小さく琉球のものに近い様に思はれる。依つて共に *nubilosa* と判定するのが妥当と思はれる。然し小笠原のものは嘴に於て平均上稍大きく 1 標本では外側尾羽 199 mm に達し琉球では 180 mm に達しない。故に更に多数の標本では差が明かとなるかも知れない。(尙琉球のものの方が胸の白が幾分純の感がある)。

次に興味ある事は南鳥島で得た卵が琉球のものと異なる事である。尙その測定は次の如く略同じである。

南鳥島	56.5×36	2. V. 1952
	51×34	"
	54.5×35.5	"
	54×35	"

八重山列島御神島 (西表島の南) (山階研)

54×35.2

14. VII. 1936

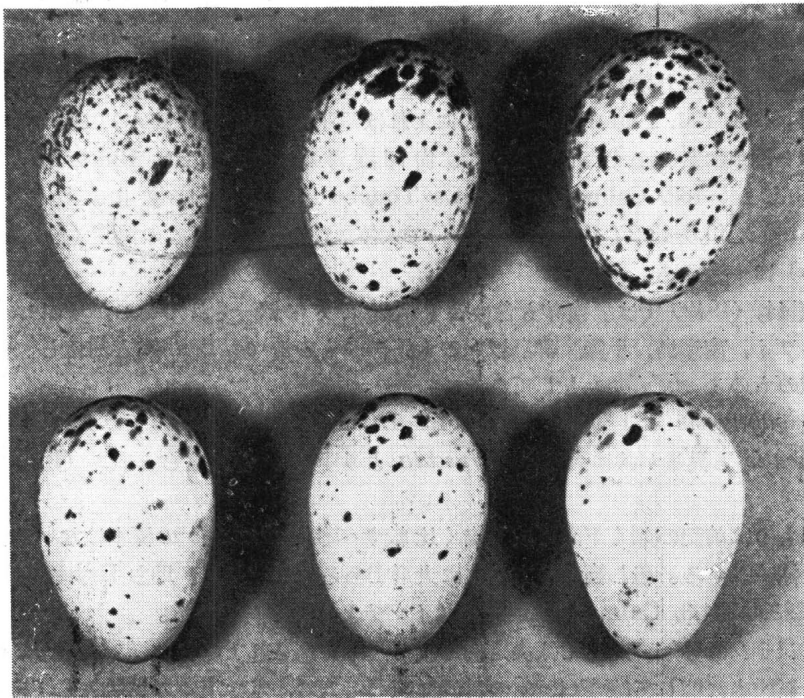
53.8×34.8

"

54.5×35

"

南鳥島の卵は僅かに赤紫色を帯びた白色の地に全面に斑が散布され大体3型あり最も普通なのは稍大きい斑も交へた上層小斑が全般的に密に散布され同様に散布された紫白色の下層斑がある。第2型はやはり全面に散布される斑は極めて小さく淡い。第3型は第2型の如く斑は小さい



上3個 南鳥島。1952年5月2日採集 (筆者)

下3個 八重山列島御神島。1936年7月14日採集 (山階研)

が所々に稍大形の斑が散在し特に鈍端に数個の大班がある。形は一般に楕円形に近い。

之に対し琉球のものは稍クリームがかつた白色の地に少数の斑が鈍端にあり、極く僅かの小斑が鋭端に迄点在する。上層斑は中、小形の赤味のない褐色 (黄褐色に近い) で下層斑は紫白色であるが殻のクリーム色に蔽はれた色である。形は鋭端の尖つた卵形に近い。

要するに前者は全般に紫赤色を帯び後者はクリーム色を帯び形も稍異なる。

尙卵の採集月日から南鳥島の方が蕃殖が早い。之は海洋気象的な要因もあろうが二つの populations が卵に関してのみならず蕃殖期の rhythm に於ても遺伝的な2型である事を示すものと思はれる。本種の場合では鳥体の測定に於ても僅か乍ら亞種的な差が認められるが同一亞種内でも population や個体により卵の差のある鳥類も多いから卵に関する特徴は近似種内では一つの gene mutation の表型であり之が亞種的に異なる population の特徴となつてゐる場合がセグロアジサシに於て見られたと考へられる。

引用文献

- A Hand-List of the Japanese Birds. 1942.
 Baker, R. H. The Avif. Micronesia, Its Origin, Evol. and Distr. 1951 (p. 161).
 Bryan, W. A. Key to the Bds. Hawaiian Group. 1901, Honolulu (p. 8).
 Bryan, W. A. A Monogr. Marcus I., Occas. Papers of the B. P. Bishop Mus. of Polyn. Ethn. and Nat. Hist., 2, no. 1, 1903.
 Hartert, E. Vög. d. Pal. Faun. II. 1912-21 (p. 1710).
 Kuroda, N., Sr. Avif. Riu Kiu Is. 1925 (pp. 189-190).
 La Touche, J. D. D. A Handb. Bds. E. China. II. 1931 4 (p. 334).
 Murray, J. A. The Avif. Brit. India II. 1890 (p. 729).
 Peters, J. Check-L. Bds. World. II. 1934 (pp. 338-9).
 Ridgway, R. The Bds. N. and M. Amer. VIII. 1919 (pp. 488, 519).

Résumé

In early May, 1952, the author collected six specimens and three eggs of *Sterna fuscata* on Marcus I. As compared with 22 Bonin, 3 Palau, 10 Riukiu and 4 Formosan specimens, these and four other Marcus specimens were found to be larger in wing length and culmen. The outermost rectrices reach 200 mm in one of the specimens and the breast is slightly purer white than in the Bonin or Palau birds. The author followed Peters ('34) in including the Marcus population in *oahuensis*, the Hawaiian race, which was not available for study and might still be larger. The birds of the other islands were regarded as *nubilosa* by their smaller size, though the difference might be found in a larger series. For example, a Bonin specimen has outermost rectrices as long as 199 mm, but they do not reach 180 mm in the Riukiu or Formosan specimens examined.

Three eggs from Marcus I. were found to be quite different from those obtained in the Riukiu (Yaeyama Group) in their reddish wash on the shell and the dense markings as well as in more round shape, contrary to the latter which are creamy as a whole and sparsely marked, being pointed at one end. The breeding season is also earlier in Marcus population as suggested by the dates of collected eggs.

前 号 正 誤			
(頁)	(行)	(誤)	(正)
5	下 6	東京	東京
6	上 9	面白く	面白く
"	上 20	東亚特産	東亚特産
9	下 10	学習院標本	学習院標本室
"	第 4 図	幼 鳥	幼 仔
12	下 4	IV	VI
28	上 9	famar	fumar
"	上 14	Date	Data
30	Table IV	Ago	Age
31	上 8	dne	due
34	上 3	<i>magellanus</i>	<i>magellanicus</i>
"	下 2	に大阪動物園	は大阪動物園
35	下 2	<i>magellanus</i>	<i>magellanicus</i>